令和８年第３回宝塚市議会（定例会）において認定された決算の要領を、地方公営企業法第３０条第７項の規定により、次のとおり公表する。

令和８年（２０２６年）１０月２１日

宝塚市長　森　　臨太郎

認定された決算の要領

（１）　令和７年度宝塚市水道事業会計決算の概要

（２）　令和７年度宝塚市下水道事業会計決算の概要

（３）　令和７年度宝塚市病院事業会計決算の概要

認定された決算の要領のうち
（１）及び（２）の内容についてのお問合せは、
宝塚市上下水道局経営管理部経営企画課までお願いします。
ＴＥＬ：０７９７-７７-２１０４（直通）

（３）の内容についてのお問合せは、
宝塚市立病院経営統括部までお願いします。
ＴＥＬ：０７９７－８７－１１６１（直通）

令和７年度（２０２５年度）

宝塚市水道事業会計決算

宝塚市上下水道局



川下川貯水池（宝塚市玉瀬字イズリハ）

目　　次

１．決算の概要	・・・・・	１
２．人口及び戸数	・・・・・	１
３．水量	・・・・・	１
４．企業債	・・・・・	１
５．決算の詳細	・・・・・	２
６．主要施策	・・・・・	４
７．管路等の耐震化の状況	・・・・・	６
８．主な経営数値	・・・・・	７
９．主な水道施設の一覧と職員の配置状況	・・・・・	８

１．決算の概要

令和7年度は収益合計4,906,125千円に対し、費用合計4,741,376千円となり、164,749千円の純利益が生じました。これまで6年連続の赤字でしたが、ようやく黒字となり、令和7年度末の未処分利益剰余金は221,791千円となりました。令和6年度と比較すると、純利益額は304,962千円増加しました。純利益額増加の主な要因は、料金改定に伴う給水収益及び他会計補助金の増加です。

また、資本的収入は、企業債772,000千円などの合計884,897千円、資本的支出は、建設改良費1,182,332千円、企業債償還金733,972千円の合計1,916,304千円となりました。

２．人口及び戸数

令和7年度末の給水人口は226,495人で前年度比1,008人の減少となっているのに対し、給水戸数は108,197戸で前年度比589戸の増加となっています。人口が減少する一方、戸数は増加傾向が続いています。

	給水人口（人）	前年度比（人）	給水戸数（戸）	前年度比（戸）
令和３年度	231,929	△1,265	106,397	282
令和４年度	230,437	△1,492	106,882	485
令和５年度	228,635	△1,802	107,199	317
令和6年度	227,503	△1,132	107,608	409
令和7年度	226,495	△1,008	108,197	589

３．水量

令和7年度末の有収水量は22,380,510㎥で前年度比126,598㎥の減少となりました。令和3年度以降、5年連続で減少しています。

	総配水量（㎥）	前年度比（㎥）	有収水量（㎥）	前年度比（㎥）	有収率
令和３年度	25,085,008	△390,768	23,342,565	△330,078	93.1%
令和４年度	24,892,695	△192,313	22,941,541	△401,024	92.2%
令和５年度	24,430,981	△461,714	22,652,213	△289,328	92.7%
令和6年度	24,316,069	△114,912	22,507,108	△145,105	92.6%
令和7年度	24,043,552	△272,517	22,380,510	△126,598	93.1%

４．企業債

老朽化した管路等の更新や耐震化工事を継続して実施していることから、企業債残高は増加傾向にあります。

（千円）

	年度当初未償還額	発行額	償還額	年度末未償還額
令和３年度	14,914,698	649,500	584,560	14,979,638
令和４年度	14,979,638	1,181,100	755,945	15,404,793
令和５年度	15,404,793	1,033,000	691,767	15,746,026
令和６年度	15,746,026	1,497,900	712,648	16,531,278
令和７年度	16,531,278	772,000	733,972	16,569,306

5．決算の詳細

（１）収益的収入及び支出（損益計算書/税抜）

（千円）

区分		令和７年度	令和６年度	増減	前年度比(%)	備考
収入	１ 営業収益	3,966,531	3,909,794	56,737)	101.5	
	(給水収益)	(3,776,514)	(3,718,256)	(58,258)	(101.6)	※1
	(受託工事収益)	(17,943)	(17,980)	(△ 37)	(99.8)	
	(その他営業収益)	(172,074)	(173,558)	(△ 1,484)	(99.1)	
	２ 営業外収益	935,400	676,487	258,913)	138.3	
	(分担金)	(153,430)	(164,430)	(△ 11,000)	(93.3)	
	(受取利息)	(5,651)	(2,194)	(3,457)	(257.6)	
	(他会計補助金)	(320,396)	(27,620)	(292,776)	(1,160.0)	※2
	(長期前受金戻入)	(428,667)	(453,256)	(△ 24,589)	(94.6)	
	(国庫補助金)	(0)	(1,959)	(△ 1,959)	(皆減)	
	(雑収益)	(27,256)	(27,028)	(228)	(100.8)	
	３ 特別利益	4,194	9,675	△ 5,481	43.3	
	(退職給付引当金戻入益)	(3,175)	(8,829)	(△ 5,654)	(36.0)	
	(過年度損益修正益)	(1,019)	(846)	(173)	(120.4)	
	計	4,906,125	4,595,956	310,169	106.7	
支出	１ 営業費用	4,506,775	4,552,545	△ 45,770	99.0	
	(人件費)	(702,680)	(749,316)	(△ 46,636)	(93.8)	※3
	(受水費)	(1,321,657)	(1,245,821)	(75,836)	(106.1)	※4
	(動力費)	(253,186)	(256,982)	(△ 3,796)	(98.5)	
	(薬品費)	(55,533)	(96,641)	(△ 41,108)	(57.5)	※5
	(修繕費)	(216,444)	(251,881)	(△ 35,437)	(85.9)	※6
	(路面復旧費)	(9,806)	(6,368)	(3,438)	(154.0)	
	(委託料)	(568,220)	(519,150)	(49,070)	(109.5)	※7
	(減価償却費)	(1,257,411)	(1,264,551)	(△ 7,140)	(99.4)	
	(その他営業費用)	(121,838)	(161,835)	(△ 39,997)	(75.3)	
	２ 営業外費用	231,629	182,536	49,093)	126.9	
	(支払利息)	(197,243)	(182,208)	(15,035)	(108.3)	
	(その他営業外費用)	(34,386)	(328)	(34,058)	(10,483.5)	※8
	３ 特別損失	2,972	1,088	1,884)	273.2	
	(過年度損益修正損)	(2,972)	(1,088)	(1,884)	(273.2)	
	計	4,741,376	4,736,169	5,207	100.1	
当年度純利益		164,749	△140,213	304,962	-	
繰越未処分利益剰余金		57,042	197,255			
未処分利益剰余金		221,791	57,042			
利益処分額(案)		0	0			

※１　（増額の理由）令和６年度料金改定の経過措置期間終了　342,696千円
令和７年度水道基本料金減免　△263,524千円
有収水量の減少　△20,914千円

※２　（増額の理由）重点支援地方交付金　水道基本料金減免分　289,877千円
システム改修費分　2,629千円

※３　（減額の理由）職員数が減少

※４　（増額の理由）渇水に対応するため県営水道・阪神水道企業団からの受水量を増量

※５　（減額の理由）活性炭の使用量が減少

※６　（減額の理由）令和6年度に実施した川下川貯水池の曝気（ばっき）装置や惣川浄水場の活性炭注入設備などに係る修繕費の剥落

※７　（増額の理由）小浜浄水場の休日夜間運転委託の契約更新による増額　29,280千円
宝塚市水道ビジョン等策定業務委託　20,856千円

※８　（増額の理由）特定収入（重点支援地方交付金等）に係る消費税　33,812千円

（２）資本的収入及び支出（税込）　　（千円）

区分		令和７年度	令和６年度	増減	前年度比(%)	備考
収入	１企業債	772,000	1,497,900	△ 725,900	51.5	
	(配水管整備事業)	(562,000)	(861,900)	(△ 299,900)	(65.2)	
	(送・配水施設整備事業)	(90,000)	(243,000)	(△ 153,000)	(37.0)	
	(配水施設耐震化事業)	(0)	(393,000)	(△ 393,000)	(皆減)	
	(浄水施設整備事業)	(120,000)	(0)	(120,000)	(皆増)	
	２国庫補助金	55,000	0	55,000	皆増	※9
	３他会計負担金	10,498	11,187	△ 689	93.8	
	４工事負担金	47,399	24,716	22,683	191.8	※10
	計	884,897	1,533,803	△ 648,906	57.7	
支出	１建設改良費	1,182,332	1,678,980	△ 496,648	70.4	
	(事務費)	(77,130)	(83,741)	(△ 6,611)	(92.1)	
	(原水及び浄水施設費)	(165,257)	(38,481)	(126,776)	(429.5)	※11
	(送水及び配水施設費)	(902,540)	(1,533,027)	(△ 630,487)	(58.9)	※12
	(営業設備費)	(37,405)	(23,731)	(13,674)	(157.6)	※13
	２企業債償還金	733,972	712,648	21,324	103.0	
	計	1,916,304	2,391,628	△ 475,324	80.1	
前年度同意債で今年度収入分		0	212,800	△ 212,800	皆減	
資本的収支不足額		1,031,407	1,070,625	△ 39,218	96.3	

補填財源			
	損益勘定留保資金	933,361	927,757
	消費税資本的収支調整額	98,046	142,868

※９　（令和7年度の内容）　水道総合地震対策事業　55,000千円
※10（令和7年度の内容）　水道管移設工事負担金　47,399千円
※11（令和7年度の内容）　惣川受変電設備　129,800千円
　　誘導結合プラズマ質量分析システム　14,960千円 など
※12（令和7年度の内容）　管路耐震化（更新）工事　727,811千円
　　山手台下加圧所ポンプ更新工事　91,467千円
　　配水池・加圧所耐震（二次）診断調査委託　51,802千円 など
※13（増額の理由）　会計システム更新　8,344千円
　　パソコンリース　4,040千円

6．主要施策

（１）施設改良・更新に関する取組

① 管路耐震化（更新）事業　727,811千円（税込）

管路更新・耐震化計画に基づいて、老朽化した管路の更新・耐震化を実施しました。

財源（千円）	
企業債	562,000
国庫補助金	55,000
他会計負担金	10,498
工事負担金	47,399
自己財源	52,914

場所	内容
安倉南4丁目外	ダクタイル鋳鉄管φ 75～200 延長L=790m
逆瀬台6丁目	ダクタイル鋳鉄管φ150 延長L=356m ダクタイル鋳鉄管φ 75～150 延長L=391m
鹿塩2丁目	ダクタイル鋳鉄管φ 75～200 延長L=309m
鹿塩2丁目外	ダクタイル鋳鉄管φ 75～200 延長L=164m
野上4丁目外	ダクタイル鋳鉄管φ200～250 延長L=1,167m ダクタイル鋳鉄管φ 75～150 延長L=831m
寿町	ダクタイル鋳鉄管φ 75～250 延長L=87m
千種1丁目外	ダクタイル鋳鉄管φ 75 延長L=156m
御殿山2丁目外	ダクタイル鋳鉄管φ400 延長L=86m
中州1丁目	ダクタイル鋳鉄管φ 75 延長L=62m
駒の町	ダクタイル鋳鉄管φ 75 延長L=40m

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費





管路更新工事

② 配水池加圧所耐震化（更新）事業　51,802千円（税込）

配水池・加圧所の耐震化（更新）に向けた診断業務委託を実施しました。

財源（千円）	
企業債	0
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	51,802

場所	内容
白瀬上配水池　外	配水池加圧所耐震二次診断調査

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



白瀬上配水池

③配水池加圧所機械設備等更新事業　91,467千円（税込）

山手台下加圧所のポンプの更新を実施しました。

財源（千円）	
企業債	90,000
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	1,467

場所	内容
山手台下加圧所	山手台下加圧所ポンプ更新工事

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



山手台下加圧所ポンプ更新工事

④水質分析装置更新　14,960千円（税込）

水道水中の銅及び鉄などの水質基準項目を分析する装置の定期更新を行いました。

財源（千円）	
企業債	0
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	14,960

場所	内容
水質検査室	誘導結合プラズマ質量分析システム

予算：資本的支出＞建設改良費＞原水及び浄水施設費



誘導結合プラズマ質量分析装置

⑤会計システム更新　8,344千円（税込）

会計システムをクラウド化するとともに、会計伝票の電子決裁が行えるシステムへの更新を実施しました。

財源（千円）	
企業債	0
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	8,344

場所	内容
上下水道局庁舎	会計システム更新

予算：資本的支出＞建設改良費＞営業設備費



会計システム更新

（2）安心安全に関する取組

①2回線受変電設備への改良工事　129,800千円（税込）

惣川浄水場を2回線受電にすることで停電対策を図るため、既設受電設備の更新及び予備受電設備の追加を実施しました。

財源（千円）	
企業債	120,000
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	9,800

場所	内容
惣川浄水場	惣川浄水場受変電設備改良工事

予算：資本的支出＞建設改良費＞原水及び浄水施設費



惣川浄水場受変電設備改良工事

7．管路等の耐震化の状況

（１）基幹管路の耐震化率（口径150mm以上の管路を対象）

導水管、送水管、配水管（口径150mm以上）のうち耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。口径の大きな管路の更新や工事価格の上昇などで目標には届きませんでした。今後は水道ビジョン2035や上下水道耐震化計画等の目標を達成するよう、年度計画を見直していきます。

（基幹管路延長　Ｌ＝348,829m）

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
目標値（%）	26.5	29.4	32.3	35.1	38.0
実績値（%）	16.2	16.9	18.4	18.8	19.5

（２）管路耐震化率（全管路対象）

管路のうち、耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。基幹管路と同じく、口径の大きな管路などの更新や工事価格の上昇により、更新の進捗が遅れ、目標を達成できませんでした。水道ビジョン2035では新たな指標を設け、管路の耐震化を推進します。

（全管路延長　Ｌ＝821,067m）

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
目標値（%）	13.8	15.1	16.3	17.6	18.8
実績値（%）	12.1	12.7	14.0	14.4	15.0

（３）配水池の耐震化率

配水池のうち、耐震化がなされている施設の容量の割合です。耐震診断等に時間を要し目標は達成できませんでした。早急に耐震診断を進め、耐震補強工事の実施時期を検討していく予定です。また、配水池の統廃合事業を進めることでも耐震化率の改善を図ります。

（配水池数　48カ所）

		令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
耐震化済箇所数（カ所）		12	13	14	15	17
耐震化率（容量比）	目標値（%）	52.2	55.5	59.7	61.0	61.0
	実績値（%）	47.0	49.1	49.2	50.7	52.5

（４）加圧所の耐震化率

加圧所のうち、耐震化がなされている施設能力の割合です。令和６年度から独自の指標から水道事業ガイドライン（JWWA Q 100）にて示されている指標に変更しました。耐震診断を実施することで、耐震強度を確認し目標を達成しています。（令和５年度以前と同じ方法で算定した場合においても、目標値は達成しています。）

（加圧所数　27カ所）

		令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
耐震化済箇所数（カ所）		12	13	15	15	17
耐震化率（能力比）	目標値（%）	25.6	25.6	26.7	28.0	34.5
	実績値（%）	28.9	32.8	40.1	54.6	56.2

※　目標値は水道事業経営戦略に掲げた数値です。

８．主な経営数値

（１）経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度賄えているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、 100%超で利益が生じています。平成30年度以降100%を切る状態が続いていましたが、令和6年度及び令和7年度に実施した料金改定によって、令和7年度にようやく100%超となりました。

	令和３年度末	令和４年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
経常収支比率（%）	92.3	88.2	92.5	96.9	103.5

（２）純利益及び未処分利益剰余金

当年度純利益は令和6年度及び令和7年度の料金改定により、平成30年度以来の黒字となりました。その累積額である未処分利益剰余金は、毎年度減少が続き、令和6年度末には57,042千円まで減少しましたが、今年度の利益により繰越欠損金の発生を回避することができました。

	令和３年度末	令和４年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
当年度純利益（千円）	△333,692	△466,861	△173,530	△140,213	164,749
未処分利益剰余金（千円）	837,646	370,785	197,255	57,042	221,791

（３）現金預金残高

現金預金残高に大口定期等と他会計貸付金を加算した合計額は、3,963,520千円となりました。令和6度末に完成した中央監視装置や高台下配水池更新工事などの大型の建設改良に係る支払の影響もあり、現金預金残高は前年度比で249,270千円の減少となっています。

	令和３年度末	令和４年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
現金預金残高（千円）	3,541,313	3,087,797	2,251,725	2,542,790	2,293,520
大口定期等（千円）	0	0	100,000	100,000	100,000
他会計貸付金（千円）	1,220,000	1,270,000	1,570,000	1,570,000	1,570,000
合計（千円）	4,761,313	4,357,797	3,921,725	4,212,790	3,963,520

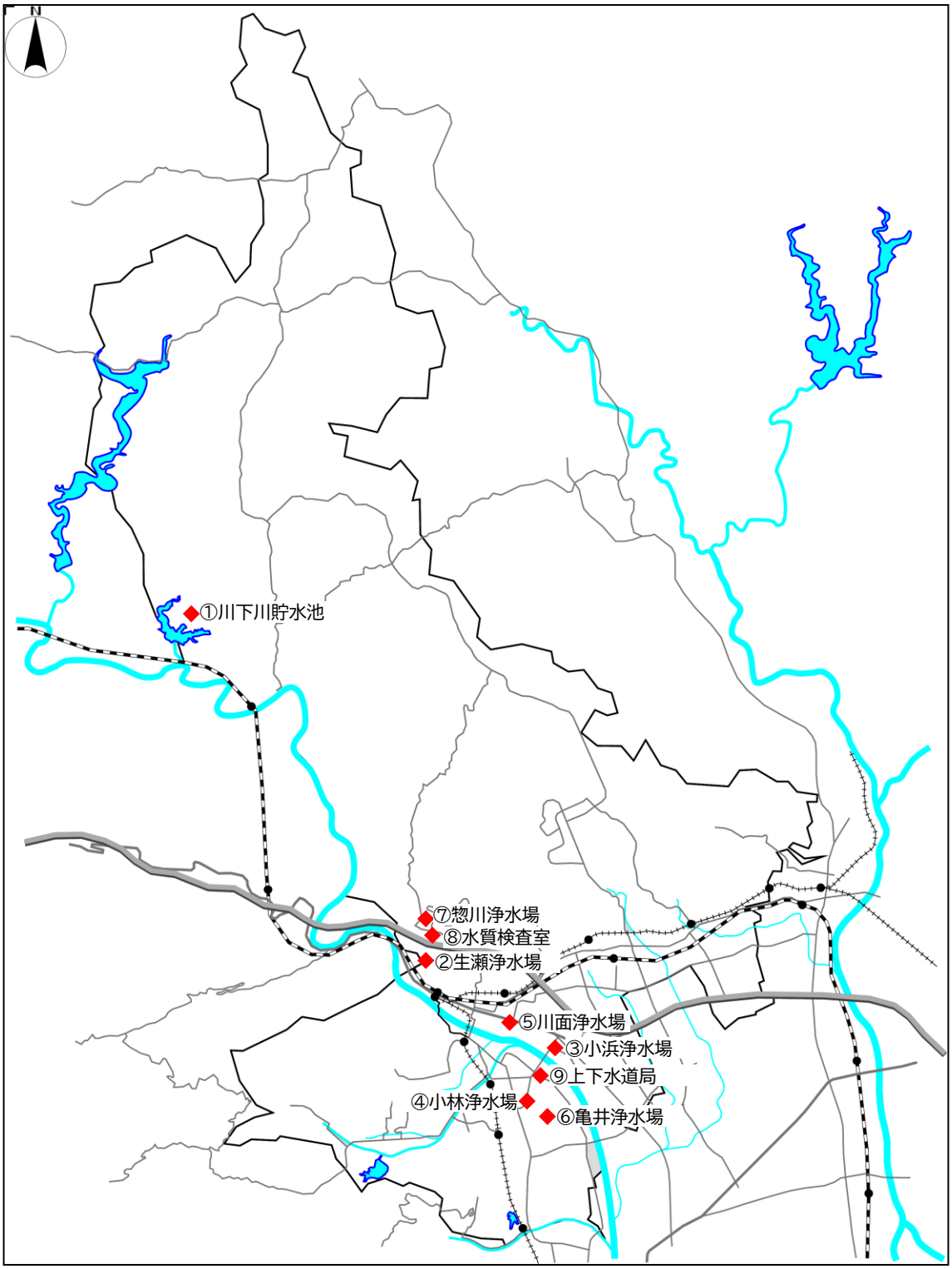
（４）給水原価及び供給単価

供給単価は１㎥あたりの平均収益、給水原価は１㎥の水道水を作るのに要する費用で、すべての年度で給水原価が供給単価を上回っています。

	令和３年度末	令和４年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
供給単価（円）	150.5	141.5	152.0	165.2	168.7
給水原価（円）	179.5	190.0	186.6	189.2	191.5
差引（円）	△29.0	△48.5	△34.6	△24.0	△22.8

９．主な水道施設の一覧と職員の配置状況

（１）水道施設位置図



（２）職員の配置状況

令和８年3月31日現在

	施設名	所在地	職員の配置	備考
①	川下川貯水池	玉瀬字イズリハ～神戸市北区道場町生野	0人	
②	生瀬浄水場	西宮市生瀬東町4番1号	業務委託	浄水池及び送水ポンプのみ稼動。
③	小浜浄水場	小浜3丁目5番20号	浄水課　5人 (5人)	
④	小林浄水場	亀井町1番23号	0人	浄水停止。
⑤	川面浄水場	旭町3丁目92番地	0人	浄水池及び送水ポンプのみ稼動。小浜浄水場職員が管理。
⑥	亀井浄水場	亀井町9番46号	0人	浄水停止。
⑦	惣川浄水場	すみれガ丘4丁目2番1号	浄水課　7人 (7人)	
⑧	水質検査室	すみれガ丘4丁目2番３号	水質検査室　7人 (7人)	
⑨	上下水道局	東洋町1番3号	上下水道事業管理者　1人 (1人) 上下水道局長　1人 (1人) 経営管理部長　1人 (1人) 施設部長　1人 (1人) 施設部課長　1人 (1人) 総務課　7人 (3人) 経営企画課　9人 (7人) 浄水課　8人 (8人) 工務課　24人 (24人) 給排水設備課　14人 (10人) 下水道課　14人 (0人)	

( )内は、うち水道事業会計職員　合計76名

令和７年度（２０２５年度）

宝塚市下水道事業会計決算

宝塚市上下水道局



武庫川下流浄化センター（尼崎市）

目　　次

1．決算の概要	・・・・・	1
2．人口及び戸数	・・・・・	1
3．水量	・・・・・	1
4．企業債	・・・・・	1
5．決算の詳細	・・・・・	2
6．主要施策（雨水事業）	・・・・・	4
7．主要施策（汚水事業）	・・・・・	5
8．管路の耐震化の状況	・・・・・	6
9．主な経営数値	・・・・・	7
10．主な下水道施設の一覧と職員の配置状況	・・・・・	8

１．決算の概要

令和７年度は収益合計4,064,920千円に対し、費用合計4,269,435千円となり、204,515千円の純損失が生じました。その結果、令和７年度末の未処分利益剰余金は2,569,833千円となりました。令和６年度と比較すると、純利益額は220,862千円減少し、平成26年度以来の純損失となっています。純損失となった主な要因は、流域下水道維持管理費や委託料の増加です。

また、資本的収入は、企業債1,334,450千円などの合計1,452,533千円、資本的支出は、建設改良費993,932千円、企業債償還金1,930,291千円の合計2,924,223千円となりました。

２．人口及び戸数

令和７年度末の水洗化人口は222,840人で前年度比1,614人の減少となっているのに対し、水洗化世帯数は106,353戸で前年度比740戸の増加となっています。人口が減少する一方、世帯数は増加傾向が続いています。

	水洗化人口（人）	前年度比（人）	水洗化世帯数（戸）	前年度比（戸）
令和３年度	227,864	△895	104,468	447
令和４年度	226,429	△1,435	104,958	490
令和５年度	224,790	△1,639	105,316	358
令和６年度	224,454	△336	105,613	297
令和７年度	222,840	△1,614	106,353	740

３．水量

令和７年度末の有収水量は22,444,352㎥で前年度比151,031㎥の減少となりました。令和３年度以降、５年連続で減少しています。

	総処理水量（㎥）	前年度比（㎥）	有収水量（㎥）	前年度比（㎥）	有収率
令和３年度	30,159,244	747,728	23,444,797	△286,139	77.7%
令和４年度	27,102,261	△3,056,983	22,965,897	△478,900	84.7%
令和５年度	26,634,638	△467,623	22,675,126	△290,771	85.1%
令和６年度	26,532,079	△102,559	22,595,383	△79,743	85.2%
令和７年度	27,601,191	1,069,112	22,444,352	△151,031	81.3%

４．企業債

毎年度、多額の償還を実施していることから、企業債残高は減少傾向にあります。

（千円）

	年度当初未償還額	発行額	償還額	年度末未償還額
令和３年度	18,649,441	1,138,550	2,403,462	17,384,529
令和４年度	17,384,529	1,088,750	2,305,400	16,167,879
令和５年度	16,167,879	563,800	1,783,073	14,948,606
令和６年度	14,948,606	1,140,300	2,121,350	13,967,556
令和７年度	13,967,556	1,334,450	1,930,291	13,371,715

５．決算の詳細

（１）収益的収入及び支出（損益計算書/税抜）　　（千円）

区分		令和７年度	令和６年度	増減	前年度比（%）	備考
収入	１ 営業収益	2,877,499	2,860,780	16,719	100.6	
	（下水道使用料）	(2,179,135)	(2,189,857)	(△ 10,722)	(99.5)	
	（雨水処理負担金）	(697,726)	(661,756)	(35,970)	(105.4)	※１
	（他会計負担金）	(0)	(7,481)	(△ 7,481)	(皆減)	
	（その他営業収益）	(638)	(1,686)	(△ 1,048)	(37.8)	
	２ 営業外収益	1,177,726	1,146,670	31,056	102.7	
	（国庫補助金）	(33,656)	(145)	(33,511)	(23,211.0)	※２
	（他会計負担金）	(50,716)	(51,025)	(△ 309)	(99.4)	
	（他会計補助金）	(382,521)	(392,474)	(△ 9,953)	(97.5)	
	（長期前受金戻入）	(705,615)	(697,813)	(7,802)	(101.1)	
	（その他営業外収益）	(5,218)	(5,213)	(5)	(100.1)	
	３ 特別利益	9,695	9,088	(607)	(106.7)	
	（退職給付引当金戻入益）	(5,112)	(6,817)	(△ 1,705)	(75.0)	
	（固定資産売却益ほか）	(4,583)	(2,271)	(2,312)	(201.8)	
	計	4,064,920	4,016,538	48,382	101.2	
支出	１ 営業費用	4,034,174	3,772,628	261,546	106.9	
	（人件費）	(166,819)	(148,249)	(18,570)	(112.5)	
	（修繕費）	(226,790)	(200,249)	(26,541)	(113.3)	
	（委託料）	(210,465)	(152,597)	(57,868)	(137.9)	※３
	（負担金）	(156,038)	(163,352)	(△ 7,314)	(95.5)	
	（流域下水道維持管理費）	(1,095,807)	(930,863)	(164,944)	(117.7)	※４
	（減価償却費）	(2,127,560)	(2,131,675)	(△ 4,115)	(99.8)	
	（その他営業費用）	(50,695)	(45,643)	(5,052)	(111.1)	
	２ 営業外費用	232,863	226,547	6,316	102.8	
	（支払利息）	(171,099)	(184,749)	(△ 13,650)	(92.6)	
	（その他営業外費用）	(61,764)	(41,798)	(19,966)	(147.8)	
	３ 特別損失	2,398	1,016	1,382	236.0	
	（過年度損益修正損ほか）	(2,398	1,016	1,382	236.0)	
	計	4,269,435	4,000,191	269,244	106.7	
当年度純利益		△ 204,515	16,347	△ 220,862	－	
繰越未処分利益剰余金		2,774,348	2,758,001			
未処分利益剰余金		2,569,833	2,774,348			
利益処分額（案）		0	0			

※１（増額の理由）　水の官民連携推進事業等による増加

※２（令和７年度の内容）　ストックマネジメント計画策定事業24,500千円、
水の官民連携事業　9,108千円、雨水貯留槽助成事業　48千円。

※３（増額の理由）　下水道ビジョン、経営戦略等計画策定による増加　34,524千円。

※４（増額の理由）　武庫川下流流域維持管理費　緊急修繕が発生したこと等による増加
137,524千円

（２）資本的収入及び支出（税込）　　（千円）

区分		令和７年度	令和６年度	増減	前年度比（%）	備考
収入	１ 企業債	1,334,450	1,140,300	194,150	117.0	
	（公共下水道企業債）	（ 658,100）	（ 357,800）	（ 300,300）	（ 183.9）	※５
	（流域下水道企業債）	（ 177,000）	（ 95,100）	（ 81,900）	（ 186.1）	
	（資本費平準化債）	（ 499,350）	（ 687,400）	（ △ 188,050）	（ 72.6）	
	２ 国庫補助金	35,501	30,075	5,426	118.0	
	３ 他会計負担金	73,998	100,237	△ 26,239	73.8	
	４ 工事負担金	2,479	3,174	△ 695	78.1	
	５ 水洗便所改造資金回収金	0	100	△ 100	皆減	
	６ 固定資産売却代金	6,105	0	6,105	皆増	
	計	1,452,533	1,273,886	178,647	114.0	
	翌年度繰越額に係る財源充当額	0	8,975	△ 8,975	皆減	
支出	１ 建設改良費	993,932	582,520	411,412	170.6）	
	（公共下水道整備費）	（ 663,410）	（ 460,227）	（ 203,183）	（ 144.1）	※６
	（流域下水道整備費）	（ 197,828）	（ 113,001）	（ 84,827）	（ 175.1）	
	（受益者負担金事務経費）	（ 9,868）	（ 8,962）	（ 906）	（ 110.1）	
	（固定資産購入費）	（ 122,826）	（ 330）	（ 122,496）	（ 37,220.0）	
	２ 企業債償還金	1,930,291	2,121,350	△ 191,059	91.0）	
	（公共下水道企業債償還金）	（ 916,624）	（ 1,161,046）	（ △ 244,422）	（ 78.9）	※７
	（流域下水道企業債償還金）	（ 141,302）	（ 144,443）	（ △ 3,141）	（ 97.8）	
	（資本費平準化債償還金）	（ 872,365）	（ 815,861）	（ 56,504）	（ 106.9）	
	計	2,924,223	2,703,870	220,353	108.1	
資本的収支不足額		1,471,690	1,438,959	32,731	102.3	

補填財源			
	損益勘定留保資金	1,391,559	1,392,272
	消費税資本的収支調整額	80,131	46,687

※５　（令和７年度の内容）　雨水事業　212,700千円、汚水事業　445,400千円

※６　（令和７年度の内容）　雨水事業

浸水対策事業　113,218千円

武庫川ポンプ場改築事業　59,960千円　など

汚水事業

管路等更新事業　163,296千円

重要な汚水幹線の更新事業　230,413千円　など

※７　（減額の理由）　企業債残高減少による前年度比の減少。

6．主要施策（雨水事業）

（１）浸水に対する取組

① 浸水対策事業　113,218千円（税込）

近年の想定を超えた大雨に対応するため、向月町地区や星の荘地区の浸水対策として雨水排除能力の強化に取り組んでいます。また、山本西2丁目地区について、浸水対策のため新たな雨水管を敷設しました。

財源（千円）	
企業債	107,600
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	5,618



場所	内容
寿町	星の荘地区浸水対策工事に伴う水道管移設工事
向月町	浸水対策詳細設計業務委託
山本西2丁目	雨水排水管布設工事 Φ250㎜、φ300㎜FRPM管　L＝48ｍ

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

② 調整池維持管理事業　6,846千円（税込）

市内34カ所ある調整池について、順次、土砂の堆積などによる機能低下を回復し、防災機能の向上を図っています。すみれが丘1丁目調整池内に溜まった土砂の浚渫を行いました。

財源（千円）	
企業債	0
国庫補助金	0
他会計負担金	6,846
工事負担金	0
自己財源	0



場所	内容
すみれが丘1丁目	除草工　400㎡ 浚渫・処分工　250㎥

予算：収益的支出＞営業費用＞委託料

（２）老朽化に対する取組

① 武庫川ポンプ場改築事業　59,960千円（税込）

昭和50年の運用開始から約50年以上が経過し、老朽化が進んでいます。耐震化・耐水化を図りながら、老朽化した施設の改築更新を行うための実施設計を行いました。

財源（千円）	
企業債	29,900
国庫補助金	29,980
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	80



場所	内容
武庫川町	武庫川ポンプ場実施設計業務

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

7．主要施策（汚水事業）

（１）老朽化に対する取組

① 管路等更新事業　163,296千円（税込）

宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき、カメラ調査を実施し、その結果を踏まえて更新を行っています。中山桜台4丁目において、1,076ｍの改築工事を実施しました。また、中山台1丁目外で8,500ｍのＴＶカメラ調査を行いました。

財源（千円）	
企業債	147,100
国庫補助金	7,574
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	8,622



場所	内容
中山桜台4丁目外	管更生工事　L＝1,076ｍ 既設コンクリート管
中山台1丁目外	汚水本管TVカメラ調査工 L＝8,500ｍ
仁川うぐいす台外	汚水本管TVカメラ調査工 L＝276ｍ



予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

（２）耐震化の取組

① 重要な汚水管路の更新事業　230,413千円（税込）

劣化や地震などにより、下水道管路が破損した場合に、下水道使用者への影響が大きい重要な管路を更新しています。中筋7丁目地内にある中筋汚水幹と亀井町外地内にある宝塚汚水幹線の耐震化工事を実施しました。また、重要な施設に接続する汚水幹線の耐震化状況を把握するために、既設汚水管の耐震簡易診断を実施しました。

財源（千円）	
企業債	211,900
国庫補助金	6,922
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	11,591



場所	内容
中筋7丁目	管更生工事　L＝98ｍ 既設コンクリート管及びボックスカルバート
亀井町外	管更生工事　L＝598ｍ 既設コンクリート管
市内一円	汚水管路施設耐震診断 簡易診断　A＝2,473ha



予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費

８．管路の耐震化の状況

（１）重要な汚水管路の耐震化率

本指標は、損傷した場合に使用者への影響が大きい汚水管路、社会的影響が大きい緊急輸送路や軌道の下などに埋設された汚水管路の耐震化率であり、令和７年度は中筋汚水幹線（延長Ｌ　＝98.7m）の耐震化に取り組みました。宝塚汚水幹線については令和６年、７年に工事を分割し、令和6年度分の繰越となった工事（L＝598.0m）が完了しましたが、令和７年度分の工事が完成せず、目標値を17ポイント下回りました。令和８年度には実績値として90.0%となる予定であり、残った路線は新たな指標の管路延長と重複しているために今後は新たな指標として耐震化を行います。

（管路延長　L＝6,900m）

	令和３年度末	令和４年度末	令和５年度末	令和６年度末	令和７年度末
目標値（%）	57.9	68.4	79.0	89.5	100.0
実績値（%）	56.9	64.1	71.0	72.5	82.6

（２）汚水管路の耐震化率（全管路対象）

宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき耐震化を実施しています。令和６年度からの繰越しである中山桜台汚水管線と中筋汚水幹線の管路改築工事が完了しましたが、令和７年度の改築工事が繰越しとなり、目標値を2.5ポイント下回りました。本指標は、汚水管路総延長に対する耐震汚水管整備延長と管路改築（更正・布設替）の整備延長の累積割合でしたが、経年とともに全ての管渠が一様に劣化していくわけではなく、点検調査を行いながら劣化が著しい箇所について耐震化と合わせた改築更新を行うという実際の実務と乖離していたため、次年度からは指標を見直し、今後も汚水管路の耐震化に努めます。

（全管路延長　L＝530,781m）

	令和３年度末	令和４年度末	令和５年度末	令和6年度末	令和７年度末
目標値（%）	21.4	22.4	23.3	24.2	26.2
実績値（%）	21.2	21.4	22.6	23.0	23.7

※　目標値は下水道事業経営戦略に掲げた数値です。

９．主な経営数値

（１）経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度賄えているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%未満では損失が発生しています。令和７年度は流域下水道維持管理費負担金の増加等により100%を下回りました。

	令和３年度末	令和４年度末	令和５年度末	令和６年度末	令和７年度末
経常収支比率（%）	99.6	102.2	100.8	100.2	95.0

（２）純利益及び未処分利益剰余金

令和６年度までは純利益を達成できましたが、令和7年度に大きく赤字に転じました。なお、令和３年度の純利益がゼロになっているのは、この年度限りの基準として、他会計補助金の受取額を「総収益と総費用が均衡する額」に変更したためです。令和４年度以降、他会計補助金は「汚水に係る資本費の30%」を受け取っています。

	令和３年度末	令和４年度末	令和５年度末	令和６年度末	令和７年度末
当年度純利益（千円）	0	119,829	39,232	16,347	△204,515
未処分利益剰余金（千円）	2,598,940	2,718,769	2,758,001	2,774,348	2,569,833

（３）借入金残高

営業運転資金に充てるため、水道事業から借入を行っています。令和６年度以降、新たな借入はありません。令和７年度から返済を始める予定でしたが、流域下水道維持管理費負担金の増加により資金繰りが悪化したため、返済を延期しました。

	令和３年度末	令和４年度末	令和５年度末	令和６年度末	令和７年度末
借入金残高（千円）	970,000	1,270,000	1,570,000	1,570,000	1,570,000

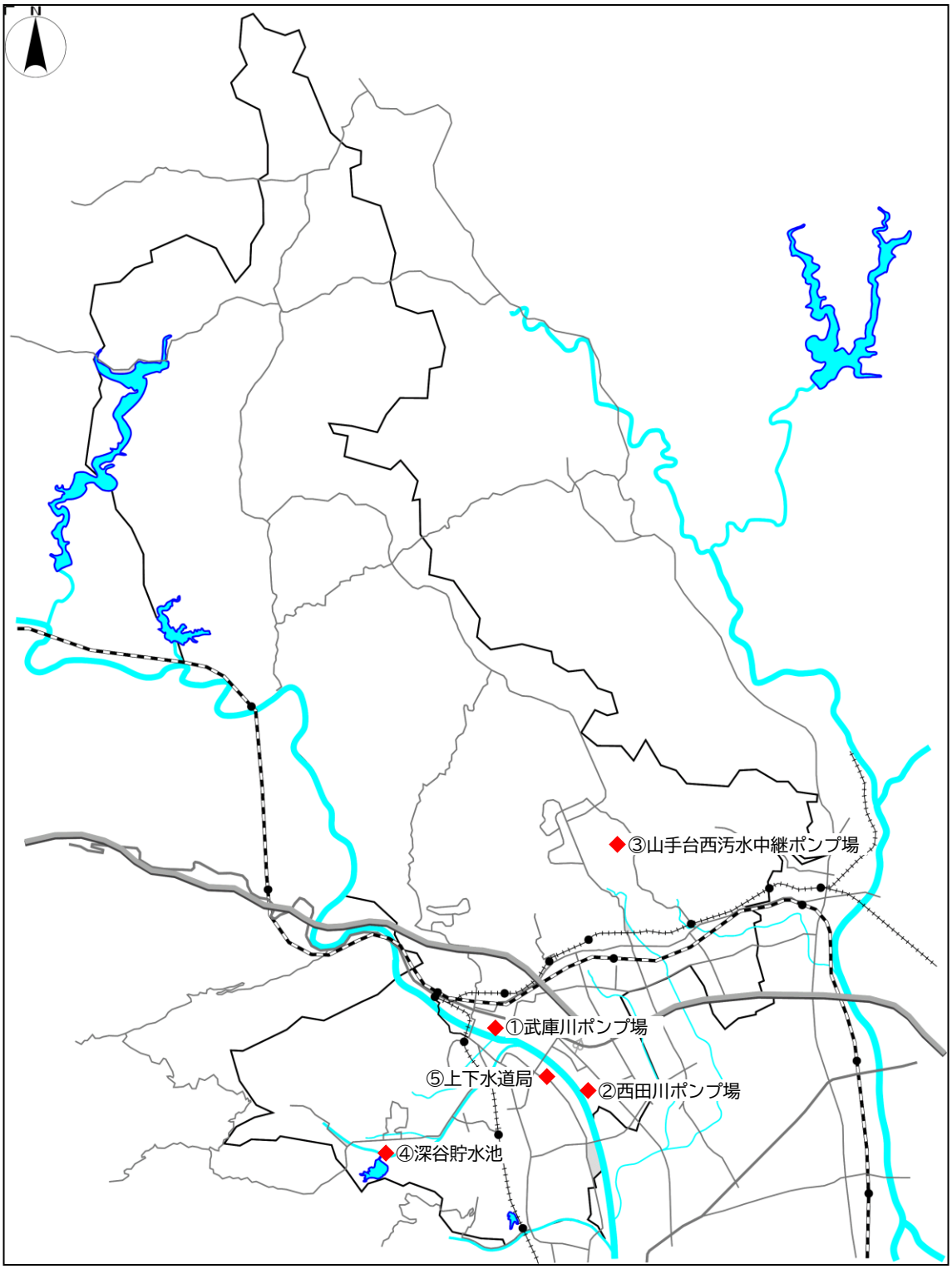
（４）汚水処理原価及び使用料単価

使用料単価は１㎥あたりの平均収益、汚水処理原価は１㎥の汚水を処理するのに要する費用です。すべての年度で汚水処理原価が使用料単価を上回っています。

	令和３年度末	令和４年度末	令和５年度末	令和６年度末	令和７年度末
使用料単価（円）	96.6	91.8	96.8	96.9	97.1
汚水処理原価（円）	112.3	114.4	116.1	117.0	127.7
差引（円）	△15.7	△22.6	△19.3	△20.1	△30.6

10. 主な下水道施設の一覧と職員の配置状況

（１）下水道施設位置図



（２）職員の配置状況

令和８年3月31日現在

	施設名	所在地	職員の配置	備考
①	武庫川ポンプ場	武庫川町6番1号	0人	雨水ポンプ場
②	西田川ポンプ場	安倉西2丁目3番15号	0人	雨水ポンプ場
③	山手台西汚水中継ポンプ場	山手台西3丁目7番1011	0人	汚水ポンプ場
④	深谷貯水池	蔵人字深谷1390番地2	0人	
⑤	上下水道局	東洋町1番3号	上下水道事業管理者　１人　（　０人） 上下水道局長　１人　（　０人） 経営管理部長　１人　（　０人） 施設部長　１人　（　０人） 施設部課長　１人　（　０人） 総務課　７人　（　４人） 経営企画課　９人　（　２人） 浄水課　８人　（　０人） 工務課　２４人　（　０人） 給排水設備課　１４人　（　４人） 下水道課　１４人　（１４人）	

（ ）内は、うち下水道事業会計職員　合計２４名

令和7年度決算
病院事業会計



1. 決算の概要 ・・・ 1
2. 入院単価等 ・・・ 2
3. 外来単価等 ・・・ 2
4. 決算の詳細 ・・・ 3
5. 主要施策 ・・・ 5
6. 主な経営数値 ・・・ 7
7. 診療科別 入院実績 ・・・ 9
8. 診療科別 外来実績 ・・・11

宝塚市立病院

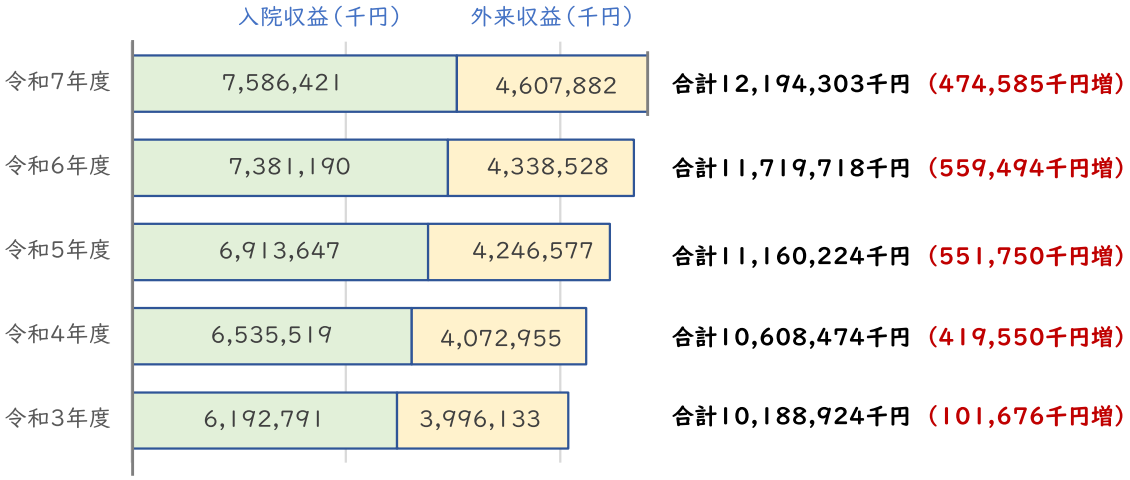
Ⅰ. 決算の概要

5年連続収益増

入院については入院期間の適正化（DPC Ⅰ及びⅡの期間（診断群分類別全国平均在院日数）退院率71%以上目標）に努めたことにより、入院単価の向上を実現しました。また、外来についても地域のクリニック等との連携を強化し、紹介患者の獲得と逆紹介を推進したことにより、外来単価の向上を実現しました。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
DPC Ⅰ Ⅱ期間率 （%）	66.4	67.4	71.6	70.6	71.0
紹介患者数 （人）	11,995	12,175	12,468	12,615	12,604
逆紹介患者数 （人）	17,723	19,654	20,676	22,232	22,368

これにより、入院収益は205,231千円増加（令和7年度7,586,421千円、令和6年度7,381,190千円）し、外来収益は269,354千円増加（令和7年度4,607,882千円、令和6年度4,338,528千円）しました。入院収益と外来収益の合計は474,585千円増加して12,194,303千円となり、5年連続収益増を達成しました。



費用増

費用については、給与改定による給与費の増加（令和7年度7,143,830千円、令和6年度6,898,622千円）、高額な薬品の使用による材料費の増加（令和7年度3,470,958千円、令和6年度3,198,683千円）等により、医業費用は前年度から644,593千円増加して13,761,265千円となりました。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
医業費用 （千円）	12,037,254	12,342,741	12,927,518	13,116,672	13,761,265
うち給与費 （千円）	6,556,316	6,550,266	6,742,288	6,898,622	7,143,830
うち材料費 （千円）	2,678,014	2,793,758	3,116,565	3,198,683	3,470,958

経常収支改善

経常収益（医業収益と医業外収益の合計額）から経常費用（医業費用と医業外費用の合計額）を差し引いた経常利益は136,639千円のマイナス（経常損失）ですが、前年度と比較して37,709千円改善しています。

2. 入院単価等

１日入院患者数と入院単価、入院収益は次のとおりです。１日入院患者数は前年度より減少しましたが、入院単価の増加により外来収益は増加しています。

１日入院患者数 ⇩

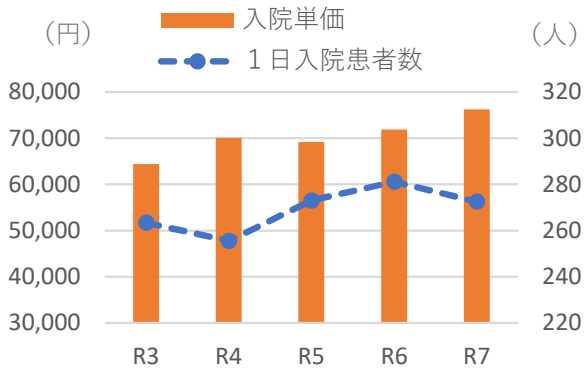
272.6人（8.6人 減）

入院単価 ⇧

76,251 円（4,347円 増）

入院収益 ⇧

7,586,421千円（205,231千円 増）



		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
１日入院患者数	(人)	263.4	255.6	273.1	281.2	272.6
平均在院日数	(日)	10.7	10.3	9.9	9.8	9.8
入院単価	(円)	64,417	70,059	69,170	71,904	76,251
入院収益	(千円)	6,192,791	6,535,519	6,913,647	7,381,190	7,586,421

3. 外来単価等

１日外来患者数と外来単価、外来収益は次のとおりです。１日外来患者数は前年度より減少しましたが、外来単価の増加により外来収益は増加しています。

１日外来患者数 ⇩

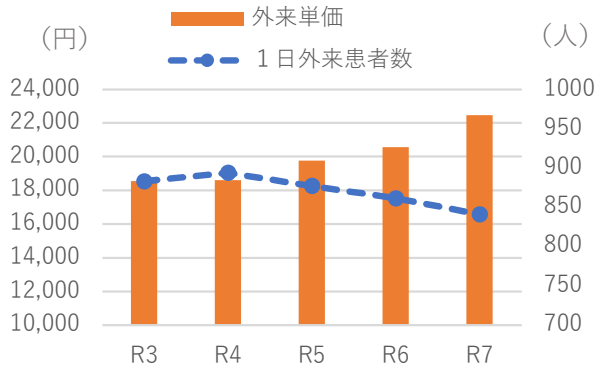
841.0人（20.4人 減）

外来単価 ⇧

22,455 円（1,897円 増）

外来収益 ⇧

4,607,882千円（269,354千円 増）



		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
１日外来患者数	(人)	882.9	893.8	877.1	861.4	841.0
うち初診患者数	(人)	121.4	126.3	109.1	106.1	102.1
外来単価	(円)	18,550	18,600	19,761	20,558	22,455
外来収益	(千円)	3,996,133	4,072,955	4,246,577	4,338,528	4,607,882

4. 決算の詳細

（1）収益的収入及び支出（損益計算書/税抜）

（千円）

	区分	令和7年度	令和6年度	増減額	前年比(%)	備考
収入	**医業収益**（A）	**12,892,302**	**12,411,966**	**480,336**	**103.9**	
	（入院収益）	(7,586,421)	(7,381,190)	(205,231)	(102.8)	
	（外来収益）	(4,607,882)	(4,338,528)	(269,354)	(106.2)	
	（他会計負担金）	(535,847)	(530,193)	(5,654)	(101.1)	
	（その他）	(162,152)	(162,055)	(97)	(100.1)	
	医業外収益（B）	**1,411,239**	**1,140,678**	**270,561**	**123.7**	
	（受取利息）	(1,965)	(558)	(1,407)	(352.2)	
	（他会計補助金）	(288,361)	(255,759)	(32,602)	(112.7)	
	（他会計負担金）	(146,987)	(139,760)	(7,227)	(105.2)	
	（国県補助金）	(275,501)	(19,351)	(256,150)	(1423.7)	※1
	（長期前受金戻入）	(56,205)	(55,945)	(260)	(100.5)	
	（資本費繰入収益）	(484,027)	(535,387)	(△ 51,360)	(90.4)	
	（雑収益）	(36,034)	(1)	(36,033)	(3603400.0)	※2
	（その他）	(122,159)	(133,917)	(△ 11,758)	(91.2)	
	特別利益（C）	**1,387**	**21,381**	**△ 19,994**	**6.5**	
	（貸倒引当金戻入益）	(0)	(260)	(△ 260)	皆減	
	（過年度損益修正益）	(1,387)	(21,121)	(△ 19,734)	(6.6)	
	収益合計	**14,304,928**	**13,574,025**	**730,903**	**105.4**	
支出	**医業費用**（D）	**13,761,265**	**13,116,672**	**644,593**	**104.9**	
	（給与費）	(7,143,830)	(6,898,622)	(245,208)	(103.6)	
	（材料費）	(3,470,958)	(3,198,683)	(272,275)	(108.5)	※3
	（経費）	(2,259,753)	(2,165,298)	(94,455)	(104.4)	
	（減価償却費）	(811,602)	(810,236)	(1,366)	(100.2)	
	（その他）	(75,122)	(43,833)	(31,289)	(171.4)	
	医業外費用（E）	**678,915**	**610,320**	**68,595**	**111.2**	
	（支払利息等）	(43,660)	(43,791)	(△ 131)	(99.7)	
	（長期前払消費税償却額）	(53,830)	(65,454)	(△ 11,624)	(82.2)	
	（雑支出）	(581,425)	(501,075)	(80,350)	(116.0)	
	特別損失（F）	**292,825**	**5,362**	**287,463**	**5461.1**	
	（過年度損益修正損）	(292,825)	(5,362)	(287,463)	(5461.1)	※4
	費用合計	**14,733,005**	**13,732,354**	**1,000,651**	**107.3**	
当年度経常利益 (A+B)-(D+E)		**△ 136,639**	**△ 174,348**	**37,709**	-	
当年度純利益 (A+B+C)-(D+E+F)		**△ 428,077**	**△ 158,329**	**△ 269,748**	-	
繰越未処分利益剰余金		**1,547,786**	**1,706,115**			
未処分利益剰余金		**1,119,709**	**1,547,786**			
利益処分額（案）		**0**	**0**			

（2）資本的収入及び支出（税込）　　（千円）

	区分	令和7年度	令和6年度	増減額	前年比(%)	備考
収入	企業債	1,716,500	549,600	1,166,900	312.3	※5
	他会計補助金	1,984	394,708	△392,724	0.5	※6
	他会計負担金	19,240	18,879	361	101.9	
	寄附金	52,428	0	52,428	皆増	
	収入合計	**1,790,152**	**963,187**	**826,965**	**185.9**	
支出	建設改良費	1,470,799	571,420	899,379	257.4	
	（建設改良工事費）	(809,480)	(135,515)	(673,965)	(597.3)	※7
	（固定資産購入費）	(654,251)	(429,809)	(224,442)	(152.2)	※8
	（リース資産購入費）	(7,068)	(6,096)	(972)	(115.9)	
	企業債償還金	928,204	1,030,250	△102,046	90.1	
	他会計借入金償還金	300,000	0	300,000	皆増	
	支出合計	**2,699,003**	**1,601,670**	**1,097,333**	**168.5**	
資本的収支差額		**△908,851**	**△638,483**	**△270,368**	**142.3**	

補填財源	消費税資本的収支調整額	3,122
	損益勘定留保資金	905,729
	合　計	908,851

※1（増加の理由）令和7年度は「医療機関等における賃上げ・物価上昇に対する支援事業」の補助金
235,020千円が含まれているため

※2（増加の理由）令和7年度は手術支援ロボット（ダビンチ5）について受け取った一般会計繰入金のうち、
手術支援ロボット（ダビンチ5）の購入に係る消費税相当額を計上しているため

※3（増加の理由）薬品費が増加したため（令和7年度2,550,254千円、令和6年度2,242,066千円）

※4（増加の理由）令和7年度は補助金（令和5年度）の精算286,396千円があるため

※5（増加の理由）令和7年度は経営改善推進事業債670,000千円の借入があるため

※6（令和6年度の内容）手術支援ロボット購入に係る一般会計繰入金　394,708千円

※7（令和7年度の主な内容）

大規模改修工事	480,733千円
空調熱源設備更新工事	148,588千円
西病棟空調機更新工事	56,815千円
中央監視設備ﾘﾓｰﾄｽﾃｰｼｮﾝ装置更新整備工事	40,700千円
中央機械室蒸気ボイラー整備工事	22,000千円
外来棟外通路照明LED化改修工事	15,994千円

※8（令和7年度の主な内容）

手術支援ロボット（ダビンチ5）	394,262千円
麻酔記録システム	48,488千円
婦人科再開に係る医療機器	53,908千円

5. 主要施策

（1）医療の質向上の取組

①手術支援ロボット（ダビンチ5）の購入（394,262千円）



令和7年12月、兵庫県で初となる最新式の手術支援ロボット（ダビンチ5）を導入し、令和8年1月から稼働しています。令和8年1月から3月までの手術実績は、外科10件、泌尿器科7件です。令和8年度として100件以上の手術を目指します。

②婦人科再開に係る医療機器の導入（53,908千円）



令和8年4月からの婦人科の入院診療再開にあたり、子宮頸がんや子宮筋腫等の手術に使用する内視鏡システムを導入しました。

決算額		448,170 千円
財源	企業債	53,900 千円
	一般会計繰入金	394,262 千円
	補助金等	0 千円
	自己資金	8 千円

資本的支出>建設改良費>固定資産購入費

（2）患者満足度向上の取組

①外来棟外通路照明LED化改修工事（15,994千円）



国が進める脱炭素化事業の企業債を活用し、外来棟の照明をLED化しました。

決算額		15,994 千円
財源	企業債	15,900 千円
	一般会計繰入金	0 千円
	補助金等	0 千円
	自己資金	94 千円

資本的支出>建設改良費>工事請負費

（3）施設の老朽化に対する取組

①大規模改修工事 （480,733千円）

開院当初から使用している4つの病棟において、老朽化が激しい給水配管の更新を行いました。病棟閉鎖を伴う工事であることから、患者満足度向上にも資するために天井、壁、床等の美装化も実施しました。



②空調熱源設備更新工事（148,588千円）

当院では開院当初から全館空調方式を採用しており、冷暖房の熱源を作る設備の老朽化が著しいため更新工事を行いました。



③西病棟空調機更新工事（56,815千円）

西病棟における換気設備の機器更新を行いました。



④中央機械室蒸気ボイラー整備工事（22,000千円）

耐用年数を経過した蒸気を作り出すボイラー設備を更新しました。



決算額		708,136 千円
財源	企業債	708,100 千円
	一般会計繰入金	0 千円
	補助金等	0 千円
	自己資金	36 千円

資本的支出>建設改良費>工事請負費

6. 主な経営数値

（1）経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%未満では損失が発生しています。令和3年度および令和4年度は新型コロナウイルス感染症に関する補助金により100%を上回ったものの、令和5年度から3年連続で100%未満となっています。しかし、令和6年度から2年連続で改善しています。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
経常収支比率（%）	103.0	104.5	96.9	98.7	99.1

（2）純利益及び未処分利益剰余金

令和7年度の当年度純利益は前年度よりも大きくマイナスになりましたが、これは、特別損失に令和5年度の補助金の精算額286,396千円が含まれているためであり、経常利益としては37,709千円改善しています。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
当年度純利益（千円）	366,610	586,971	385,620	△158,329	△428,077
未処分利益剰余金（千円）	733,524	1,320,495	1,706,115	1,547,786	1,119,709

（3）年度末の長期借入金残高

各年度末における長期的な借入金の残高は次のとおりです。引き続き資金不足の解消及び財政状態の健全化に取り組んでいきます。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
長期借入金（千円）	1,960,000	1,160,000	1,150,000	1,150,000	850,000

（4）企業債借入額、償還額及び残高

企業債とは施設の建設・改修や医療機器の購入等に充てるために国等から借りる資金のことです。令和7年度は経営改善推進事業債670,000千円を借り入れたこと等により、借入額が償還額を上回り、企業債残高が増加しています。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
企業債借入額（千円）	700,900	864,500	383,700	549,600	1,716,500
企業債償還額（千円）	834,533	1,007,236	1,040,247	1,030,250	928,204
企業債残高　（千円）	6,532,874	6,390,138	5,733,591	5,252,941	6,041,237

（5）職員数

各年度末における医師などの職員数は次のとおりです。カッコ内の数字は再任用職員数（別掲）です。令和7年度は前年度比で看護師が再任用職員を含めて18人増加し、全体では16人増加しています。

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
医師 （人）	81	78	83	84	84
薬剤師 （人）	27	28	28	28	28
診療放射線技師 （人）	21 (2)	22 (1)	22	21	22
臨床検査技師 （人）	27 (3)	27 (3)	26 (4)	26 (4)	28 (1)
理学療法士 （人）	8 (1)	8 (1)	8 (1)	8 (1)	9
作業療法士 （人）	5	5	5	5	5
管理栄養士 （人）	6	6	6	6	6
視能訓練士 （人）	2	2	2	2	2
臨床工学技士 （人）	9 (1)	8 (1)	9 (1)	9 (1)	9 (1)
歯科衛生士 （人）	3	3	3	3	3
言語聴覚士 （人）	2	3	2	3	3
MSW （人）	4	4	5	5	5
CRC （人）	1	1	1	1	1
助産師 （人）	1	1	1	1	1
看護師 （人）	369 (8)	355 (10)	340 (10)	348 (10)	363 (13)
事務職員 （人）	26 (1)	24 (3)	27 (4)	30 (2)	28 (2)
合計 （人）	592 (16)	575 (19)	568 (20)	580 (18)	597 (17)

（6）がん診療

がん入院患者数は2,583人であり、前年度と比較して89人減少しましたが、化学療法患者数と放射線治療新規患者数は増加しています。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
がん入院患者数 （人）	2,387	2,480	2,625	2,672	2,583
化学療法患者数 （人）	3,653	4,137	4,445	4,365	5,024
放射線治療新規患者数(人)	304	324	366	397	417

7. 診療科別 入院実績

（1）延入院患者数

過去5年間の診療科別の延入院患者数は次のとおりです。

（人）

診療科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度と令和7年度		備考
						増減	比率	
内科	506	1,571	1,013	637	721	84	113%	
小児科	901	706	1,082	976	571	△405	59%	
外科	6,824	6,433	6,734	6,102	7,856	1,754	129%	※1
整形外科	15,681	14,500	14,480	12,696	12,219	△477	96%	※2
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	-	
皮膚科	2,079	2,245	2,376	2,667	2,281	△386	86%	
泌尿器科	6,160	5,157	4,843	4,618	5,049	431	109%	※3
産婦人科	0	0	0	0	0	0	-	
眼科	1,807	1,811	1,454	1,350	1,381	31	102%	
耳鼻いんこう科	2,305	1,857	2,768	2,451	2,578	127	105%	
放射線診断科	0	0	0	0	0	0	-	
麻酔科	0	0	0	0	0	0	-	
脳神経外科	3,614	5,939	7,644	8,626	8,631	5	100%	
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	-	
心療内科	0	0	0	0	0	0	-	
歯科口腔外科	820	819	995	857	872	15	102%	
循環器内科	3,828	3,702	4,954	3,861	3,509	△352	91%	
消化器内科	13,744	11,817	12,200	13,185	13,323	138	101%	※4
呼吸器内科	8,138	7,440	7,377	10,534	9,817	△717	93%	
呼吸器外科	1,051	718	1,188	1,305	1,099	△206	84%	
腎臓内科	2,513	2,238	2,141	2,342	2,293	△49	98%	
緩和ケア内科	564	2,409	2,870	3,562	3,780	218	106%	
血液内科	9,841	8,631	9,763	10,227	8,613	△1,614	84%	
リウマチ科	1,762	2,312	3,175	3,101	2,532	△569	82%	
形成外科	2,342	1,884	1,708	1,154	1,234	80	107%	
腫瘍内科	5,045	3,723	3,582	3,742	2,875	△867	77%	※5
糖尿病内科	880	782	723	1,035	1,197	162	116%	
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	-	
乳腺外科	837	662	808	1,023	1,114	91	109%	
救急科	4,894	5,930	6,074	6,602	5,948	△654	90%	
合計	96,136	93,286	99,952	102,653	99,493	△3,160	97%	

（2）入院収益

過去5年間の診療科別の入院収益は次のとおりです。

（百万円）

診療科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度と令和7年度		備考
						増減	比率	
内科	59.5	170.0	85.3	44.4	53.9	9.5	121%	
小児科	54.1	45.9	65.4	57.6	38.7	△18.9	67%	
外科	538.9	572.7	560.6	544.2	714.5	170.3	131%	※1
整形外科	990.4	985.9	1,000.1	949.2	912.9	△36.3	96%	※2
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	-	
皮膚科	89.6	112.1	110.3	130.5	116.6	△13.9	89%	
泌尿器科	384.1	361.1	332.7	322.2	373.6	51.4	116%	※3
産婦人科	0	0	0	0	0	0	-	
眼科	147.9	155.7	134.3	133.6	149.4	15.8	112%	
耳鼻いんこう科	149.2	154.2	220.8	212.1	226.5	14.4	107%	
放射線診断科	0	0	0	0	0	0	-	
麻酔科	0	0	0	0	0	0	-	
脳神経外科	240.5	394.5	602.8	757.0	783.1	26.1	103%	
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	-	
心療内科	0	0	0	0	0	0	-	
歯科口腔外科	54.6	60.3	66.6	61.0	64.5	3.5	106%	
循環器内科	259.0	283.2	322.0	259.4	230.4	△29.0	89%	
消化器内科	772.9	736.5	745.4	829.4	870.7	41.3	105%	※4
呼吸器内科	439.1	452.3	417.7	590.7	592.3	1.6	100%	
呼吸器外科	142.2	124.8	161.6	183.2	166.4	△16.8	91%	
腎臓内科	113.8	101.6	94.8	128.8	140.5	11.7	109%	
緩和ケア内科	39.8	124.7	146.0	200.8	213.0	12.2	106%	
血液内科	723.5	764.5	860.3	898.3	890.9	△7.4	99%	
リウマチ科	94.8	105.4	179.9	167.8	148.6	△19.2	89%	
形成外科	118.4	132.5	92.4	70.5	72.2	1.7	102%	
腫瘍内科	315.5	230.2	239.5	249.0	199.1	△49.9	80%	※5
糖尿病内科	37.0	32.8	32.7	49.3	57.1	7.8	116%	
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	-	
乳腺外科	59.5	60.8	65.4	91.4	101.8	10.4	111%	
救急科	368.5	373.8	377.0	450.9	469.7	18.8	104%	
合計	6,192.8	6,535.5	6,913.6	7,381.2	7,586.4	205.2	103%	

（入院収益が大きく増減した診療科の増減理由）

※1　外科：（増加理由）新しい医師が着任し、対応可能な手術症例が拡大したため

※2　整形外科：（減少理由）人工関節置換術等の全身麻酔を必要とする高度な手術の件数が減少したため

※3　泌尿器科：（増加理由）入院患者数が増加したため

※4　消化器内科：（増加理由）高度な手術が増加し、入院単価が増加したため

※5　腫瘍内科：（減少理由）がん治療において、分子標的薬や免疫療法など治療の選択肢が拡大するとともに、副作用対策・外来化学療法体制が整備されたことにより、これまで入院で行っていた治療について、外来で対応できる症例が増加しているため

8. 診療科別 外来実績

（1）延外来患者数

過去5年間の診療科別の延外来患者数は次のとおりです。

（人）

診療科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度と令和7年度		備考
						増減	比率	
内科	4,412	4,078	4,255	4,049	3,870	△179	96%	
小児科	5,319	6,059	5,192	4,058	3,464	△594	85%	
外科	6,934	6,689	6,547	6,586	6,360	△226	97%	
整形外科	17,140	16,787	15,566	14,601	13,509	△1,092	93%	
リハビリテーション科	638	519	779	607	375	△232	62%	
皮膚科	17,763	19,006	18,984	18,970	18,262	△708	96%	
泌尿器科	17,491	16,052	16,357	15,372	14,207	△1,165	92%	
産婦人科	1,588	1,425	1,434	1,432	1,423	△9	99%	
眼科	11,263	11,181	9,919	9,579	8,993	△586	94%	
耳鼻いんこう科	11,985	11,995	13,456	13,928	13,253	△675	95%	
放射線診断科	1,752	1,981	1,938	2,080	2,190	110	105%	
麻酔科	79	98	93	97	138	41	142%	
脳神経外科	2,511	2,532	3,469	3,178	3,247	69	102%	
心臓血管外科	9	0	0	0	0	0	-	
心療内科	715	672	771	886	847	△39	96%	
歯科口腔外科	9,813	11,231	12,164	12,441	12,476	35	100%	
循環器内科	9,233	9,414	9,268	7,768	7,192	△576	93%	
消化器内科	24,406	24,823	24,359	24,210	23,283	△927	96%	
呼吸器内科	9,367	10,115	10,490	11,632	11,704	72	101%	※1
呼吸器外科	1,054	1,012	1,046	1,286	1,305	19	101%	
腎臓内科	11,986	12,384	11,340	10,660	10,345	△315	97%	
緩和ケア内科	142	371	329	382	411	29	108%	
血液内科	6,820	7,132	7,472	7,273	7,685	412	106%	※1
リウマチ科	9,757	10,078	10,972	11,411	11,888	477	104%	
形成外科	5,858	4,872	4,965	4,161	3,933	△228	95%	
腫瘍内科	6,417	5,962	5,171	4,600	5,133	533	112%	※1
糖尿病内科	3,464	3,819	3,802	4,130	4,443	313	108%	
放射線治療科	5,862	6,159	6,806	7,577	7,459	△118	98%	※2
乳腺外科	4,645	5,072	5,522	5,977	6,260	283	105%	
救急科	7,002	7,454	2,428	2,104	1,546	△558	73%	
合計	215,425	218,972	214,894	211,035	205,201	△5,834	97%	

（2）外来収益

過去5年間の診療科別の外来収益は次のとおりです。

（百万円）

診療科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度と令和7年度		備考
						増減	比率	
内科	46.4	41.3	46.0	44.5	46.1	1.6	104%	
小児科	60.5	68.7	48.8	36.9	30.8	△6.1	83%	
外科	82.9	78.4	78.8	79.7	78.7	△1.0	99%	
整形外科	125.2	119.9	105.0	117.8	116.1	△1.7	99%	
リハビリテーション科	2.4	1.9	2.4	1.9	1.4	△0.5	74%	
皮膚科	117.5	137.1	157.3	170.7	164.7	△6.0	96%	
泌尿器科	264.1	245.2	268.7	258.3	255.1	△3.2	99%	
産婦人科	15.2	13.5	11.2	11.6	10.5	△1.1	91%	
眼科	113.6	109.2	98.3	96.1	92.5	△3.6	96%	
耳鼻いんこう科	115.9	107.7	117.8	128.9	122.6	△6.3	95%	
放射線診断科	43.7	48.9	47.9	54.9	56.8	1.9	103%	
麻酔科	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0	100%	
脳神経外科	29.2	30.6	42.5	45.2	41.5	△3.7	92%	
心臓血管外科	0.1	0	0	0	0	0	-	
心療内科	1.7	1.4	1.6	1.9	1.7	△0.2	89%	
歯科口腔外科	77.4	83.7	87.8	95.0	98.9	3.9	104%	
循環器内科	97.2	100.1	101.2	87.9	79.7	△8.2	91%	
消化器内科	408.5	431.5	421.7	426.3	413.2	△13.1	97%	
呼吸器内科	345.7	409.2	467.9	497.8	554.4	56.6	111%	※1
呼吸器外科	13.9	12.5	13.8	15.1	20.8	5.7	138%	
腎臓内科	251.3	254.8	247.1	241.0	238.1	△2.9	99%	
緩和ケア内科	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3	0.1	150%	
血液内科	372.8	433.2	571.2	579.7	797.9	218.2	138%	※1
リウマチ科	231.5	225.9	240.3	238.3	246.0	7.7	103%	
形成外科	36.1	30.4	32.2	30.7	30.5	△0.2	99%	
腫瘍内科	668.3	536.4	493.5	442.1	523.4	81.3	118%	※1
糖尿病内科	46.9	52.6	54.0	59.1	61.0	1.9	103%	
放射線治療科	206.8	217.1	236.7	262.1	240.0	△22.1	92%	※2
乳腺外科	152.8	179.4	211.2	273.4	253.5	△19.9	93%	
救急科	68.2	102.1	41.4	41.3	31.6	△9.7	77%	
合計	3,996.1	4,073.0	4,246.6	4,338.5	4,607.9	269.4	106%	

（外来収益が大きく増減した診療科の増減理由）

※1 呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科：（増加理由）がん治療において、分子標的薬や免疫療法など治療の選択肢が拡大するとともに、副作用対策・外来化学療法体制が整備されたことにより、これまで入院で行っていた治療について、外来で対応できる症例が増加しているため

※2 放射線治療科：（減少理由）放射線治療技術が向上したことで、腫瘍へ集中的かつ高精度に照射することが可能となり、従来より少ない回数で治療を完了できる症例が増え、患者1人当たりの外来受診回数および放射線治療の実施件数が減少したため